

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300534
法人名	医療法人 おさしお会
事業所名	グループホーム かたらい
訪問調査日	平成 20 年 8 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 6 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300534		
法人名	医療法人 おさしお会		
事業所名	グループホーム かたらい		
所在地 (電話番号)	鹿児島県鹿屋市笠之原町 1321番地1 (電話) 0994 - 43 - 2195		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年8月26日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】20年8月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算 7 人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	780	円

(4)利用者の概要(8月3日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	0名	要介護2	3名			
要介護3	4名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	1名			
年齢	平均	87歳	最低	75歳	最高	103歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	長崎内科・あさい歯科
---------	------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から少し離れ大型店舗が並ぶ幹線道路から、県道に入った道路沿いに運営母体の病院に隣接して建てられている。職員の異動や離職は一年以上もなく、馴染みの職員が利用者が不安にならないように寄り添い、時間がかかってもできることはしてもらうように見守り、元気に笑顔でかたらいながら生活できるように支援している。また、機能低下の予防の為に、ラジオ体操や椅子に座ってできる体操などを行っている。隣が運営母体の病院であるために、医療連携体制は整っており、家族や利用者にとって、安心して過ごせるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善点については、ミーティング等で話し合っている。市町村との連携については、事業所の行事計画を持参し参加等働きかけている。職員を育てる取り組みについては、法人内研修に参加しているが、事業所内では特に行われてはいない。災害対策については、消防署指導の下、母体法人と共に年2回行われている。地域の協力を得られるように、近所に避難訓練のチラシを配っている。改善点は今、取り組み中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	一ヶ月近くかけて毎日ミーティング時に取り上げ、意見を纏め上げてきている。自己評価の取り組みの中で、家族等の意見の反映で家族からの要望を聞いていけるように、管理者以外の職員を一人たて面会時などに家族からの要望や意見を頂けるように声かけすることを心がけている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会長、老人会長、包括支援センター職員、家族代表などが参加して2ヶ月に一回行われている。今回の外部評価の内容を説明したところ、プライバシーの確保についての項目で居室のドアについている小窓が気になるという意見があがりカーテンを取り付けた。また、行事報告をした時、職員の人数が足りなかったと言ったら家族代表などがいつでもボランティアができますからと言って頂いており、さまざまな意見が出され充実した取り組みがなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の相談受付担当職員を2名おいて、いつでも相談してもらえるように配慮している。要望や意見については職員に伝え、話し合い運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームで開くクリスマス会や焼肉会の時は、地域の方にチラシを配り一緒に参加してもらっている。また、近くの保育園の運動会に参加したり、中学生の職場体験を受け入れている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、職員全員で話し合い地域密着の理念に作り変えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をリビング、事務所に貼っており、朝の体操時に利用者と一緒に唱和している。職員は利用者が不安にならないようにできるだけ寄り添うことを心がけケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所の方が通りかかった時など、声かけし共にお茶を一緒に飲んだりしている。ホームで行うクリスマス会や焼肉会などには、地域の方にチラシを配り参加してもらっている。また、保育園の運動会に呼んでもらったり、中学生の職場体験を受け入れたりして地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価の結果については、職員に伝えられ全員で話し合い改善に向けて取り組み中である。自己評価については、一ヶ月近くかかり毎日ミーティングで少しずつ話し合って作り上げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内会長、老人会長、市職員、包括支援センター職員、家族代表、職員などが参加して行われている。外部評価の内容について報告した中で、居室のドアの小窓はプライバシーの確保になっていないのでは、という意見があり小窓にカーテンを取り付けるなど、意見を運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口に出向いていくときには、行事記録やかたらい便りを持参し目を通してもらうように働きかけている。報告書の記録の仕方など事務的内容については、アドバイスを貰っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常の様子や健康上のことなど、家族との連絡記録用紙を作って細かく報告している。金銭管理については、入金時に家族に直接台帳に金額を記入してもらい、領収書を渡している。また、かたらい便りも定期的に郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を吸い上げるために、相談受付担当職員を2名たて、家族の面会時に声をかけ意見を頂ける雰囲気づくりを心がけている。家族からの要望などがあった場合には、職員が共有し運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一年間以上、異動や離職がなく職員は変わらずケアにあたっている。急に離職があった時は日頃から行き来があるデイサービスから手伝いをもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に委員会があり各種勉強会を合同で行っている。外部研修については、職員は自分のレベルにあったものを選んで参加している。		法人内の研修は行われているが、ホーム内でも研修の年間計画を立て、ミーティング時に行うなど職員のスキルアップにつながるように期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会に参加している。法人内グループホームの勉強会を行ったり、他の事業所の職員と入れ替わり研修を行ったりして、職員はケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>行政の許可を受け体験入所ができる状態ではあるが、まだ行ったことはない。家族と本人に来所してもらい、お茶を一緒に飲んだりしながら、馴染んでもらうように配慮している、</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家庭菜園の野菜の作り方を教えて貰ったり、昔の料理、煮しめ、ところてん、お団子などを教えてもらいながら一緒に作っている。利用者からやさしい言葉や気遣いを受けることがあり、癒されることが多く支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所した時点でアセスメントをとっている。天気を見ながら今日は何をしたいか声かけをしている。また、会話のなかから、行きたい所や食べたい物などを把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員には各担当利用者があり、利用者についての意見を月1回の会議時に出し合い介護計画に反映している。家族からの意見はあまりあがらず日々の生活から何が楽しそうかを見て、計画に入れている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>体調の急変が短期間の場合には作り変えずに連絡ノートに記載し、全員が共有しケアの統一を図っている。長期間になるような場合には介護計画の見直しを臨機応変に行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取り法人内の病院から看護師に定期的に来てもらい医療処置を受けながら生活支援をしている。家族の要望があれば、通院介助や自宅などに連れて行くこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望によるかかりつか医となっており、専門病院への通院介助も家族ができない場合は行っている。その報告は電話で行ったり、ケア記録に医師の意見記録や検査結果を貼り情報の共有を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の重度化に対応する指針を作成しており、看取りについての同意書も作成している。重度化した場合は家族、医師、看護師、管理者との話し合うようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	写真や名札など掲載の許可を家族より得ており、個人情報の管理もきちんとされている。排泄や入浴時の声かけについては十分注意を払って、誇りやプライバシーを損ねることがないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の掃除や体操については無理じいはせず、本人の希望にまかせている。起床時間も知らせるが、本人のペースに合わせた。買い物に行きたい時や気分転換をしたい時などデイサービスの送迎に付き添うこともあり、それぞれの希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、ねぎの下ごしらえやもやしの根きりなど座ってできること、台拭きや盛り付けなどを行っている。献立も何が食べたいか聞いて、利用者の希望を取り入れている。食事は職員と同じテーブルを囲み、かたらいながら食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は楽しみの一つで、入る順番を決めて表を作り、利用者にも見せて確認してもらっている。拒否する方はほとんどおられず、本来ひとりづつの入浴だが、気の合った人と一緒に入ることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を畳んだり、日めくりをめくる担当、野菜の下ごしらえ、野菜の収穫などできるをしてもらっている。また、ぬりえやちらしを使った箱作りなどできることをしてもらい、喜びを感じてもらえるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には外の空気にふれるように心がけており、庭先に出て事業所の周りを散歩したり、近くの花屋にでかけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向にある方については職員は把握しており、様子を見ながら職員と一緒にについて出ることもある。玄関を出てすぐ道路であるために、家族の了承を得て施錠することもある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと法人内で年2回、自主訓練を夜間想定で2ヶ月に1回行っている。地域の方々にもちらしを配り協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取一日1600kcal、水分量1800ccを目安にしている。カロリー、バランスについては法人内の管理栄養士にアドバイスをもらっている。摂取量については記録し職員は把握している。食べやすいように一口大に切ったり、やわらかくしたりそれぞれに合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りのプランターには季節の花が植えられている。職員紹介の写真も貼られている。リビングに入ると、大きな文字で書かれた今年の念頭標語や手作りカレンダーがあり、折り紙を使った花火のきり絵やひまわりの絵が飾られ、季節を感じるようにしている。大きなソファにはそれぞれの好きな場所があり、くつろいだ時を過ごせるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳みの部屋もあり今まで布団で休んでいたからと自宅と同じスタイルで過ごしていたり、使い慣れたテーブルと椅子、電子器具、家族の写真や遺影などを持ち込み居心地よく過ごせるように工夫している。		